

テーマ：消費者物価（全国11月、東京都区部12月） 発表日：2006年12月26日（火）  
 ～ 当面、物価上昇率は高まらない ～

第一生命経済研究所 経済調査部  
 担当 副主任エコノミスト 新家 義貴  
 TEL：03-5221-4528

(単位：%)

		全国					東京都区部				
		総合	生鮮除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギー除く総合	石油製品	移動電話通信料	総合	生鮮除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギー除く総合	石油製品	移動電話通信料
		前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
05	1月	▲0.1	▲0.3	▲0.6	9.8	0.0	▲0.3	▲0.5	▲0.4	10.0	0.0
	2月	▲0.3	▲0.4	▲0.6	9.2	0.0	▲0.4	▲0.5	▲0.5	8.4	0.0
	3月	▲0.2	▲0.3	▲0.6	9.3	0.0	▲0.4	▲0.5	▲0.5	8.7	0.0
	4月	0.0	▲0.2	▲0.5	12.1	0.0	▲0.4	▲0.5	▲0.5	11.0	0.0
	5月	0.2	0.0	▲0.4	12.8	0.0	▲0.2	▲0.4	▲0.4	12.4	0.0
	6月	▲0.5	▲0.2	▲0.4	8.5	0.1	▲0.7	▲0.4	▲0.4	6.3	0.1
	7月	▲0.3	▲0.2	▲0.4	9.4	0.0	▲0.3	▲0.4	▲0.3	7.2	0.0
	8月	▲0.3	▲0.1	▲0.5	11.5	0.0	▲0.5	▲0.3	▲0.3	9.4	0.0
	9月	▲0.3	▲0.1	▲0.3	9.4	0.0	▲0.6	▲0.4	▲0.4	8.1	0.0
	10月	▲0.7	0.0	▲0.4	9.6	0.0	▲1.0	▲0.3	▲0.6	8.1	0.0
	11月	▲0.8	0.1	▲0.1	8.5	▲0.5	▲1.0	▲0.3	▲0.3	7.1	▲0.5
	12月	▲0.1	0.1	0.0	8.4	▲0.5	▲0.5	▲0.2	▲0.3	7.5	▲0.5
06	1月	▲0.1	▲0.1	▲0.7	11.0	▲7.3	▲0.3	▲0.4	▲0.6	9.6	▲7.3
	2月	▲0.1	0.0	▲0.5	13.5	▲7.3	▲0.3	▲0.2	▲0.5	11.7	▲7.3
	3月	▲0.2	0.1	▲0.5	14.0	▲7.3	▲0.4	▲0.1	▲0.3	11.8	▲7.3
	4月	▲0.1	▲0.1	▲0.6	9.3	▲7.3	▲0.1	▲0.1	▲0.3	6.9	▲7.3
	5月	0.1	0.0	▲0.5	11.3	▲6.6	0.0	▲0.1	▲0.2	9.7	▲6.6
	6月	0.5	0.2	▲0.4	12.3	▲6.6	0.3	0.0	▲0.3	11.3	▲6.6
	7月	0.3	0.2	▲0.3	11.3	▲6.6	0.2	0.0	▲0.1	10.9	▲6.6
	8月	0.9	0.3	▲0.4	13.2	▲6.6	0.8	0.0	▲0.2	13.3	▲6.6
	9月	0.6	0.2	▲0.5	11.5	▲6.6	0.5	0.0	▲0.3	11.5	▲6.6
	10月	0.4	0.1	▲0.4	9.0	▲6.6	0.4	0.1	▲0.1	8.2	▲6.6
	11月	0.3	0.2	▲0.2	5.9	▲0.3	0.2	0.2	0.0	4.7	▲0.3
	12月	-	-	-	-	-	0.3	0.2	0.0	4.1	▲0.3

(出所)総務省統計局「消費者物価指数」

## ○ 市場予想通りの結果

11月の全国消費者物価指数は前年比+0.2%と、市場予想(同+0.2%)通りの結果となった。内訳をみると、移動電話通信料が、昨年11月の値下げの影響が一巡したことから同▲0.3%と、10月の同▲6.6%からマイナス幅を縮小させ、押し上げ要因になった(CPIコアへの寄与度：10月▲0.14%P→11月▲0.01%P)。また、石油製品は同+5.9%(10月同+9.0%)と引き続きプラス寄与を縮小させた(CPIコアへの寄与度：10月+0.35%P→11月+0.23%P)。特殊要因(※)除くコアについては同▲0.10%と10月(同▲0.17%)から若干改善している。事前に予想されていた通りの内容であり、特に意外感はない。

12月の東京都区部消費者物価指数は前年比+0.2%と、11月の同+0.2%と変わらなかった。石油製品価格が同+4.1%(11月同+4.7%)とプラス幅が若干縮小したことが目立つ程度で、内訳をみても特に大きな動きはなかった。なお、特殊要因除くコアは同+0.04%と、11月(同+0.03%)から僅かに改善している。

※ここでは、米類、電気代・都市ガス、石油製品、保険医療サービス、固定電話通信料、移動電話通信料、たばこを特殊要因としている。

## ○ 12月も前年比+0.2%にとどまる見込み

11月の全国消費者物価コアは前月からプラス幅を拡大させたが、これは携帯電話通信料によるマイナス寄与と剥落要因によりほとんど説明できる。この改善をもって、物価の伸びが基調として高まっていると捉えることは困難だろう。

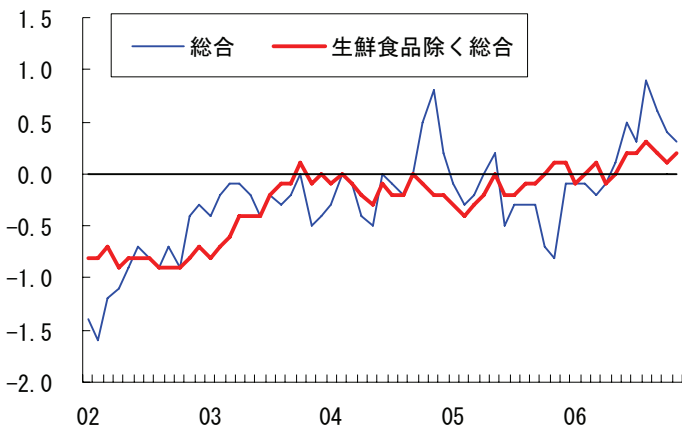
12月の全国消費者物価コアに関しても、目立った改善は見込み難い。石油製品価格の押し上げ寄与は11月と比較して▲0.03%ポイント程度縮小する見込みであり、引き続きCPIを押し下げる。その他の品目については、12月の東京都区部の動きを見る限り、大きく改善することはないだろう。12月の全国消費者物価指数は前年比+0.2%と、今月と変わらない低い伸びが続くと予想される。

## ○ 当面、物価上昇率は高まらない

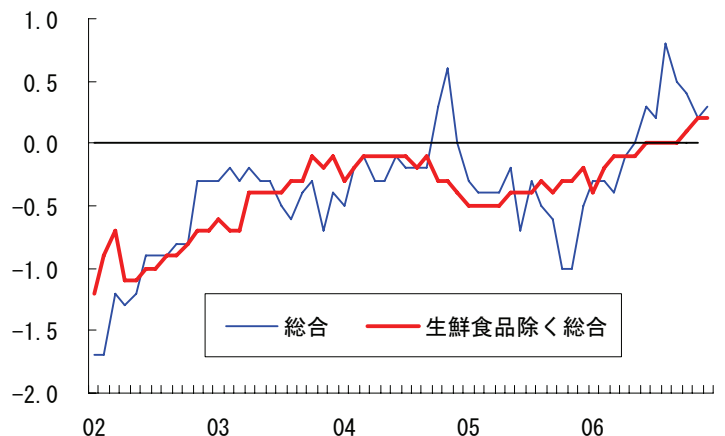
石油製品価格については、年明け以降もCPIの伸びを抑制する要因になりそうだ。12月を東京都区部並み、1月以降を横ばいとして計算すれば、足元11月時点で前年比+0.23ポイント（対CPIコア）ある石油製品のプラス寄与は徐々に縮小していき、来年5月にはマイナスに転化することになる。

いわゆる「特殊要因除くコア」が緩やかに改善していることは好材料ではあるが、改善ペースは非常に緩やかであり、物価を大きく押し上げるには至らないだろう。消費者物価は当面、極めて低い伸びを続ける可能性が高いと思われる。2006年1月以降に伸びが高まっていた裏が出やすいことを踏まえると、2007年以降のリスクはむしろ下振れだ。ガソリン価格動向次第の面もあるが、場合によっては消費者物価が一時的にマイナスに転じる可能性もみておきたい。

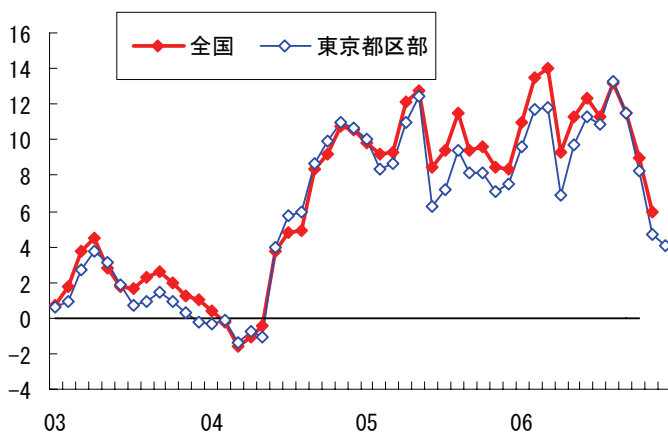
全国消費者物価指数（前年比、%）



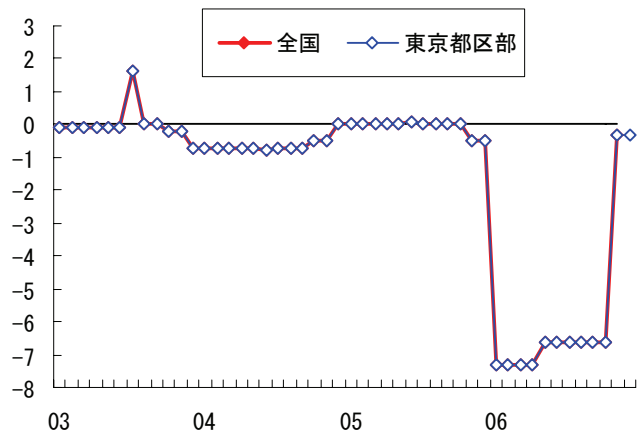
東京都区部消費者物価指数（前年比、%）



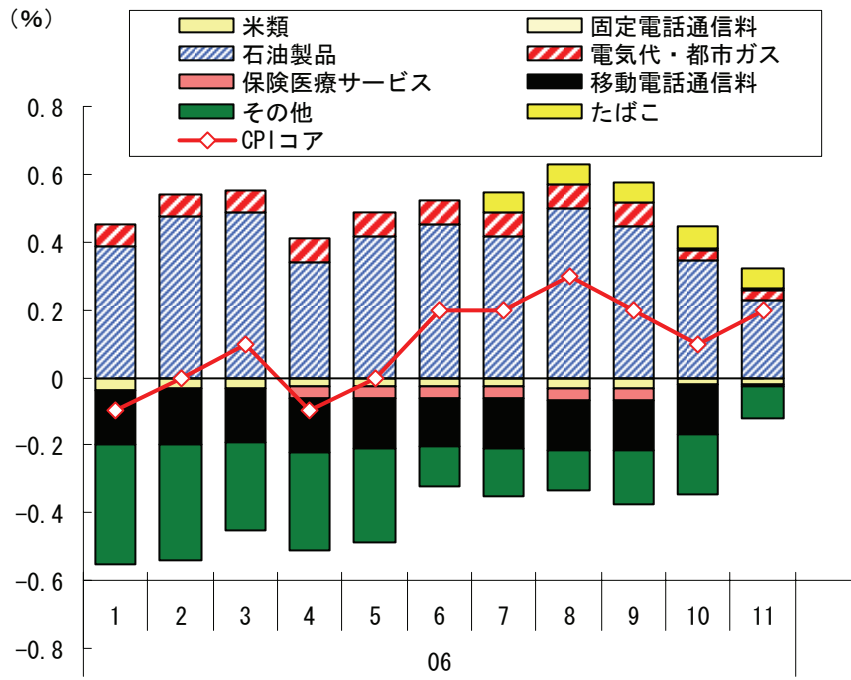
石油製品（前年比、%）



携帯電話通信料（前年比、%）



全国・消費者物価コア前年比



東京都区部・消費者物価コア前年比

